

世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群公開講座

第7回 「ヤマト王権と沖ノ島」

本講座は「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の世界的な価値を明らかにするために
行われた調査研究成果を、最新の知見と合わせて広くお伝えすることを目指しています。

今回は考古学の立場から古墳時代の宗像地域を検討し、ヤマト王権および宗像地域を支
配した古代豪族宗像氏が沖ノ島祭祀にどう関わったのか、考えます。

日 時：令和元年 12 月 7 日（土） 13:30-16:30

場 所：カメラリアホール大研修室

スケジュール：

13:30 開会あいさつ

13:40 講演1 「「ヤマト王権と沖ノ島祭祀」
白石 太一郎（しらいし たいちろう）先生

15:00 休憩(15分)

15:15 講演2 「宗像地域における古墳時代首長の対外交渉と沖ノ島祭祀」
重藤 輝行（しげふじ てるゆき）先生

16:30 閉会

ヤマト王権と沖ノ島祭祀

白石 太一郎

沖ノ島における古代祭祀は、九州の一地方勢力によって執行されたものではなく、畿内の「ヤマト王権」による国家的な性格のものであったことは、奉獻品の豪華さなどから、早くから指摘されてきたところである。その結論は今も変わらないが、ただその後約半世紀間の考古学的な古墳時代研究の進展の結果、沖ノ島祭祀開始の契機などに関する見解は、大きく修正が迫られている。最近の研究成果を踏まえてこの課題について考えてみたい。

従来の「4世紀中葉以降、鉄資源を求めて朝鮮半島南部に進出したヤマト王権が宗像の勢力によってなされていた沖ノ島祭祀に関与するようになった」とする井上光貞氏の説(井上「古代沖ノ島の祭祀」『東大三十余年』1978年)に代表されるような見解は、最早成立し難い。沖ノ島の祭祀遺跡で最も遡る17号遺跡に供獻されている銅鏡群に含まれる倣製三角縁獣文帯三神三獣鏡(20号鏡)などは、最近の福永伸哉氏による倣製三角縁神獣鏡の編年ではその第Ⅴ段階に位置づけられ、4世紀の第4半期に降るものとされる(福永『三角縁神獣鏡の研究』2005年)。沖ノ島祭祀の始まりは4世紀後半とされてきたが、それも4世紀末葉に近いものであることは疑いないのである。

4世紀末葉は、畿内王権内部でもその中核が大和の勢力から河内の勢力に移った大変革の時期である。それは高句麗の南下に対応するため百済が倭国に誼を求め、倭国もこの東アジアの国際情勢の荒波に巻き込まれた結果にほかならない。新しい河内政権は、積極的に百済やその影響下にあった伽耶諸国との直接的な交渉・交易に乗り出すのである。それこそがヤマト王権による沖ノ島祭祀開始の契機にほかならない。

はじめに

1. 沖ノ島祭祀の開始時期
2. 4世紀末葉におけるヤマト王権の変容
3. 4世紀後半の東アジア情勢と沖ノ島祭祀
4. 沖ノ島祭祀における宗像勢力の役割

まとめ

〔沖ノ島祭祀とヤマト王権の関わりに関する既往の学説〕

① 鏡山 猛氏（「結語」『沖ノ島』宗像大社復興期成会、1958年）

「ひるがえって史書をひもとく時、古墳時代の後期といわれる時代には新羅との対立抗争の記事が多いことに気がつくのである。この歴史的な抗争に即して沖ノ島の遺物を考えるならば、新羅での戦利品或は戦勝祈願といった端的な考えもうかぶのであるが、このような解釈には吟味を要する。吾々はむしろこの対新羅との国際関係の緊張したなかに、記録にはあらわれない文化交渉の一面を求めたいのである。（中略）それは半島の一国に限られた関係ではないけれども、広く西方の文物が伝播する経路を考える上に新羅の立場は微妙に影響してくる。ガラス容器は不幸にして小残片止まっているが、これも西方とつながる遺物として新羅古墳の発見遺物は貴重なかけ橋である。」

「時代は降るけれども、三彩陶片も舶載品とすれば特筆すべき事柄である。これらの遺物は、我が国の古墳墓にも稀にみる所であり、沖ノ島の豊富な祭祀品からみれば、それが北九州という特殊な環境によって得られた特権でなく、祭祀の性格が国家的な色彩を帯びていることが推測されるであろう。」

② 原田大六氏（「十七号遺跡」『続沖ノ島』宗像大社復興期成会、1961年）

「（前略）ではこの奉納は誰が行ったのであろうか。（中略）これはある特定の場所から一括して奉納されたものであろう。それでは鏡21面その他を一括奉納したのを九州の一豪族として見た場合はどうなるであろうか。弥生文化ならいざ知らず、古墳文化前期にかけて、鏡21面を副葬した古墳は九州では1基も知られていない。豊前石塚山の14面が最高である。（中略）これだけの品物が奉納できるのは、畿内大和朝廷以外にないと考えられる。」

③ 鏡山 猛氏（「結び」『続沖ノ島』宗像大社復興期成会、1961年）

「当宗像神の祭祀が地方的独立勢力のみを背景として成立したものではなく、大和朝廷の国家神として成立したことがうかがえる。」

④ 岡崎 敬氏「総括編」『宗像沖ノ島』宗像大社復興期成会、1979年）

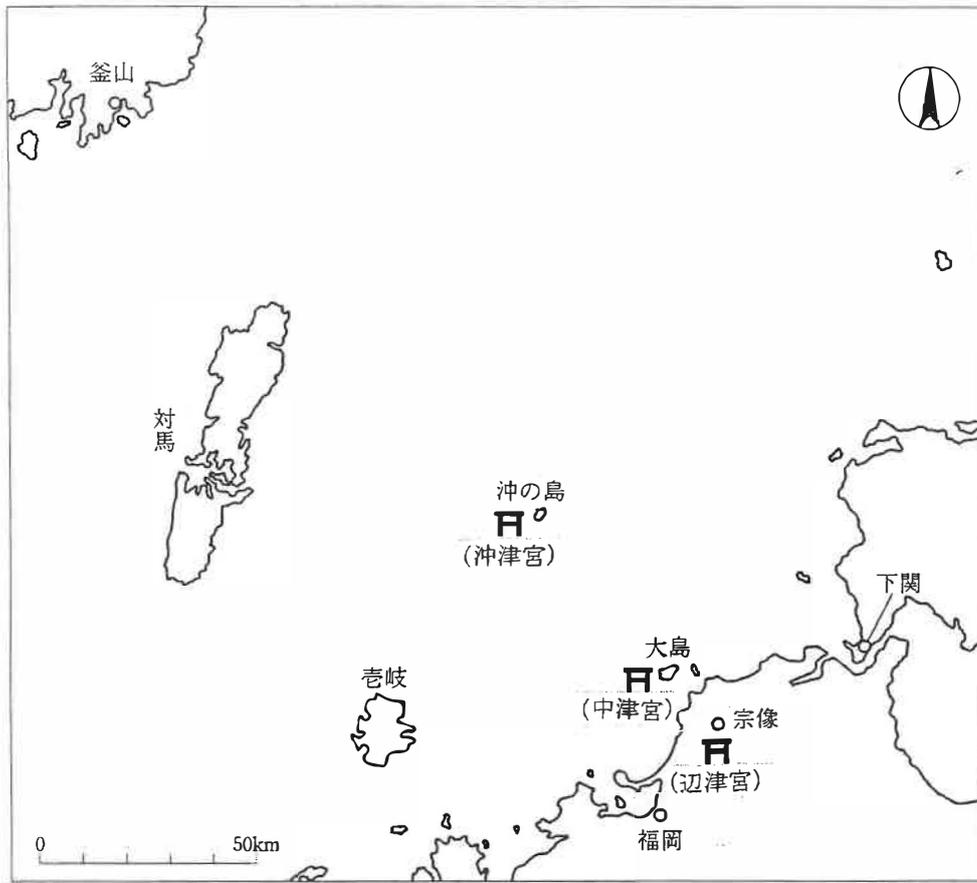
沖ノ島祭祀は、古墳時代前期でも新しい段階の4世紀後半から始まる。4世紀における日本の対外交渉の歴史をあとづけると、それが百済などとの海外交渉を契機に始まったことが知られる。4世紀後半、百済との密接な交渉を始めた大和政権が、宗像の漁民やその豪族「胸形君」の協力を必要としたところから、「筑紫の胸形君等が祭る神」であった宗像神を、大和政権が新しい祭儀と奉獻品をもって祀るようになったものとされる。

さらに、沖ノ島祭祀遺跡で最も新しい1号遺跡が9世紀の後半ないし10世紀初頭をもって終焉を迎えることから、国家的規模で行われた遣唐使の廃止もまた沖ノ島における国家的祭祀の終焉の一つの理由と考えうることを指摘される。

⑤ 井上光貞氏（「古代沖の島の祭祀」『東大三十余年』私家版、1978年）

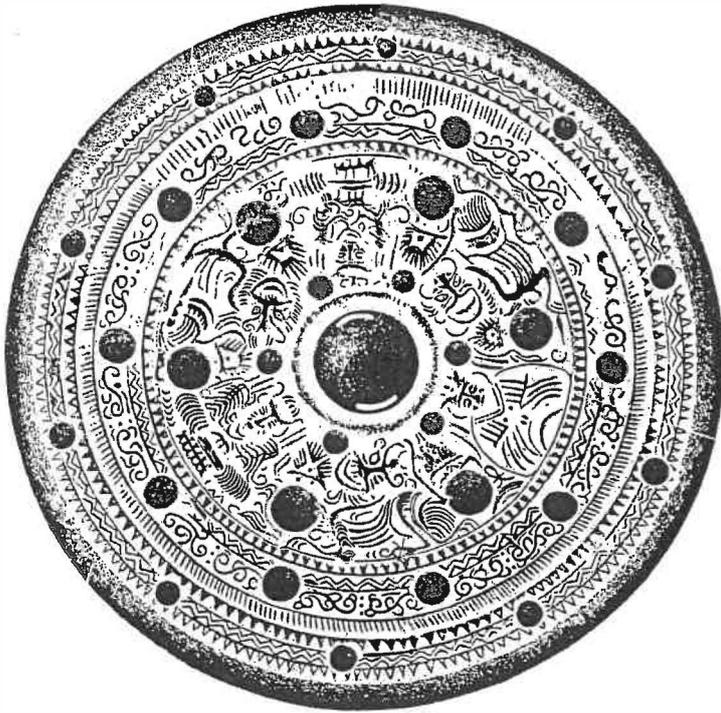
「大和王権はおそくも4世紀初頭には、北九州をもその勢力下におさえ、中葉からは鉄資源を求めて、南鮮にその勢力を伸ばしたのである。またそのことの文化的表現が古墳文化であって、古墳文化は4世紀初頭には畿内におこり、4世紀を通じてしだいに深く九州に及んでいくのである。しかしこの大和王権の勢力の九州への浸透、また南鮮への発展という事態こそ、第一義的には筑紫の地方豪族の祭祀であった宗像祭儀に、大和王権が関与していく真の歴史的背景であったのではないだろうか。大和王権が北九州を足場として南鮮へ進出し始めると。当然ここに、日韓航路安全の問題が大きな課題となってくるのである。そこに、これまでになかった大和王権の参与が考古学的に立証されることの意味が発見されるのである。」

《玄界灘における沖ノ島の位置》



沖ノ島の位置

沖ノ島 17号遺跡の三角縁神獣鏡

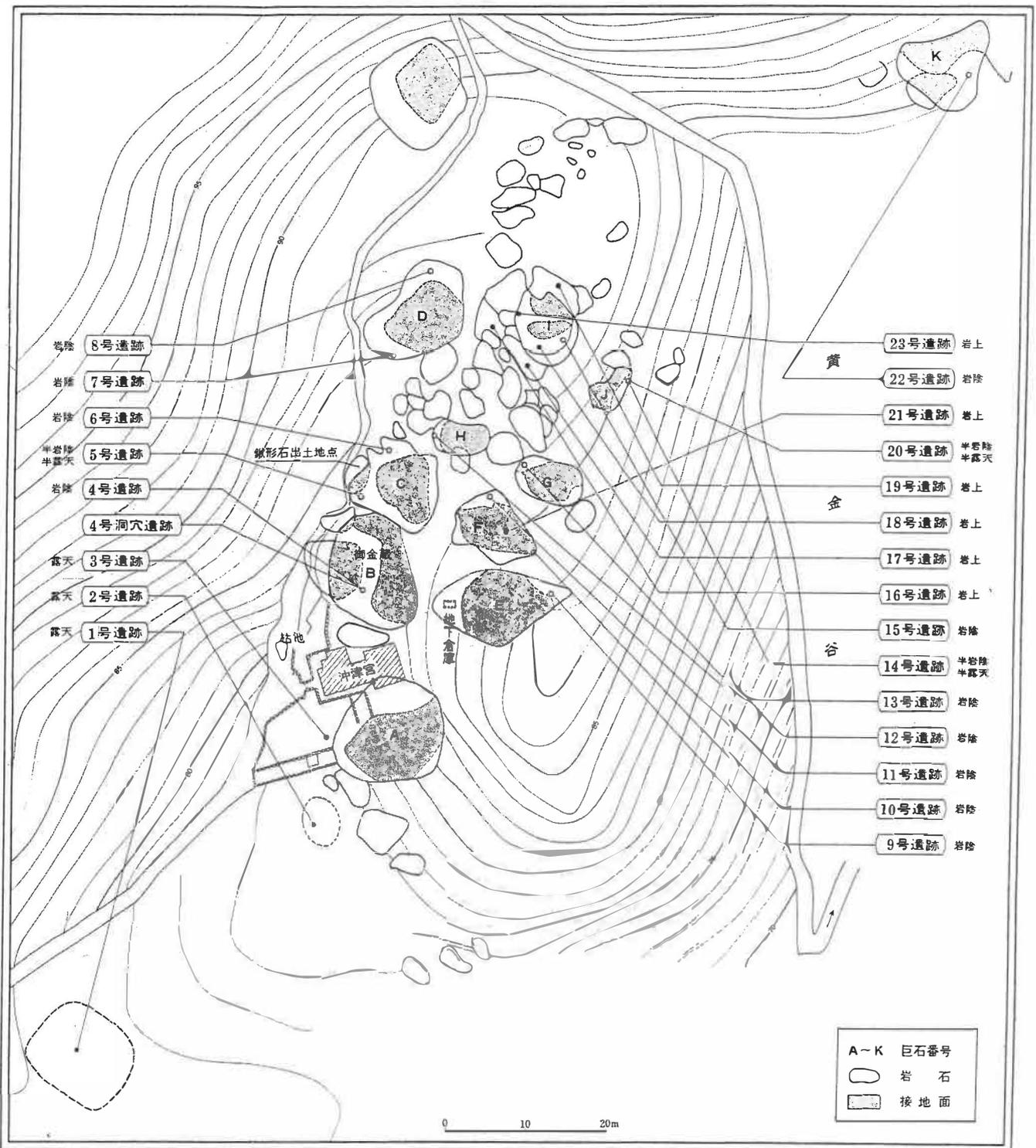
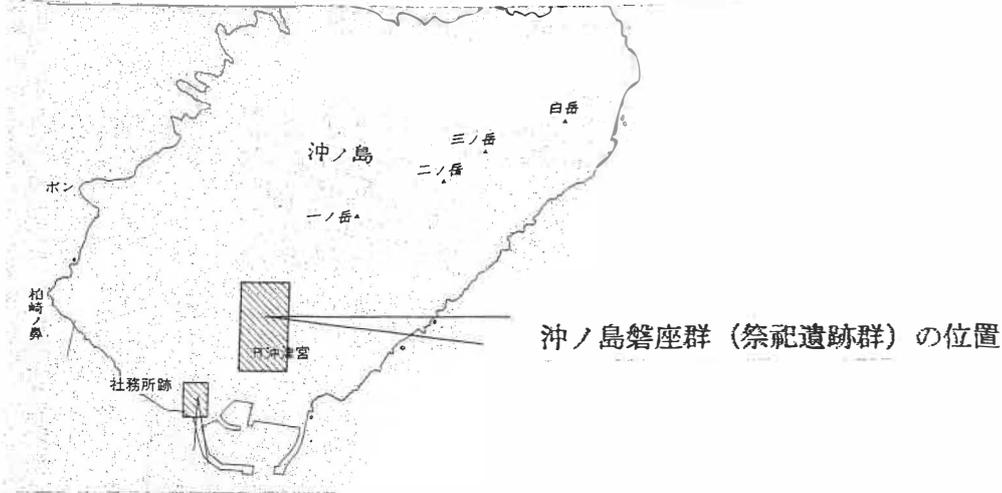


三角縁唐草文帯三神三獣鏡 (18号鏡)



三角縁獣文帯三神三獣鏡 (20号鏡)

《沖ノ島磐座群における祭祀遺跡の分布》



沖ノ島祭祀遺跡の分布

《津屋崎古墳群の分布》

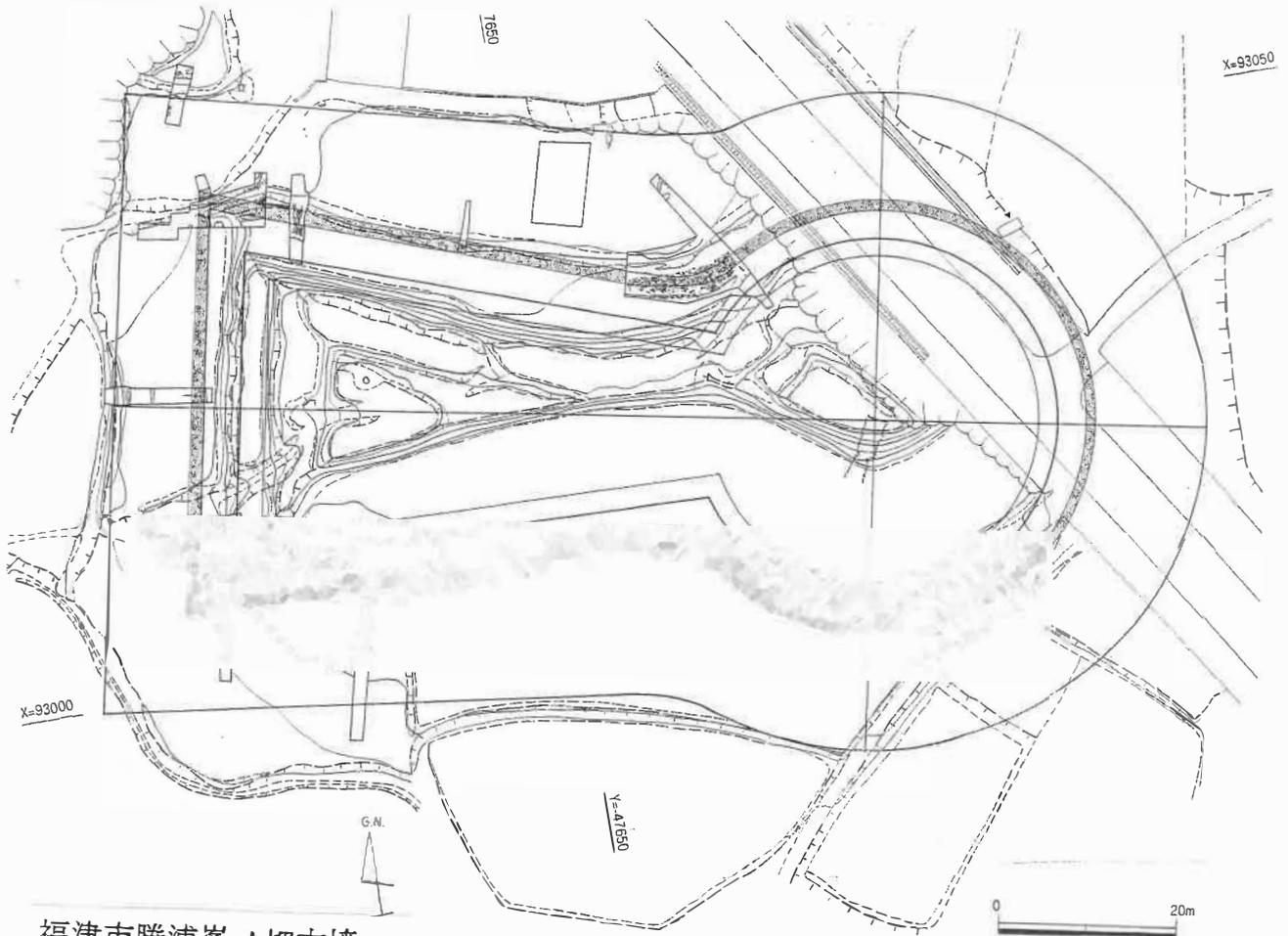


津屋崎古墳群古墳分布図

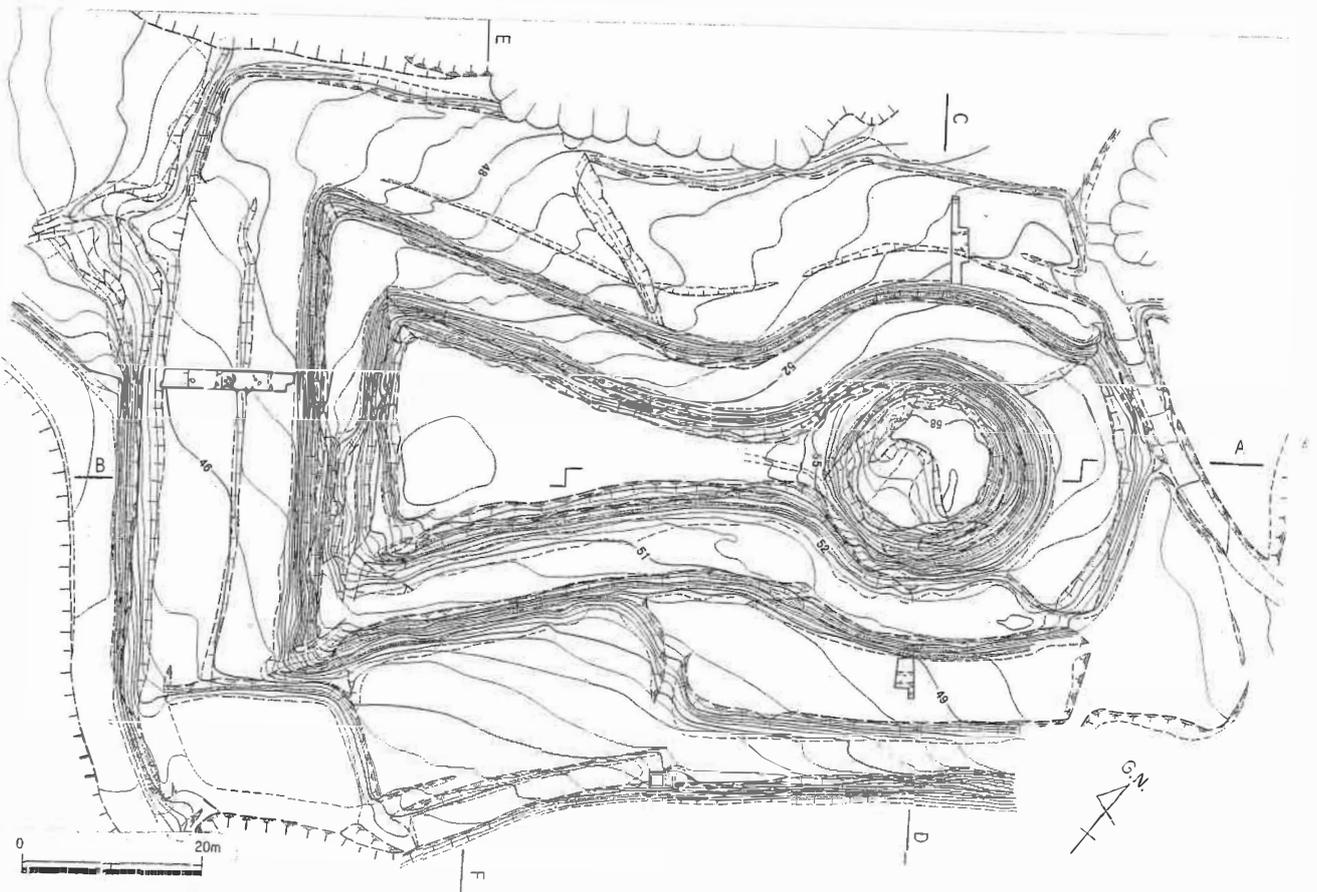
《津屋崎古墳群の主要古墳とその年代》

集成編年	勝浦	奴山・生家	須多田	宮司・手光
400	5			● 宮司井手ノ上古墳 (26)
	6		● 奴山正園古墳 (32)	● 宮ノ下古墳 (10)
500	7	● 勝浦高堀古墳 (30)		
		● 勝浦峯ノ畑古墳 (100)	● 新原・奴山1号墳 (50)	
	8	● 勝浦井ノ浦古墳 (70)	○ 新原・奴山22号墳 (80)	● 須多田ニタ塚古墳 (34)
600		○ 神湊上野1号墳 (40)	○ 新原・奴山24号墳 (54)	○ 須多田上ノ口古墳 (43)
			○ 生家大塚古墳 (73)	
			○ 新原・奴山12号墳 (43)	
	9	● 桜京古墳 (39)	○ 新原・奴山30号墳 (54)	○ 須多田天降天神社古墳 (80)
		○ 勝浦高原11号墳 (49)		○ 須多田ミノ塚古墳 (60)
			○ 須多田下ノ口古墳 (83)	○ 大石岡ノ谷1号墳 (55)
			○ 在自剣塚古墳 (102)	○ 大石岡ノ谷2号墳 (43)
				● 宮地嶽古墳 (34)
				○ 手光波切不動古墳 (20)

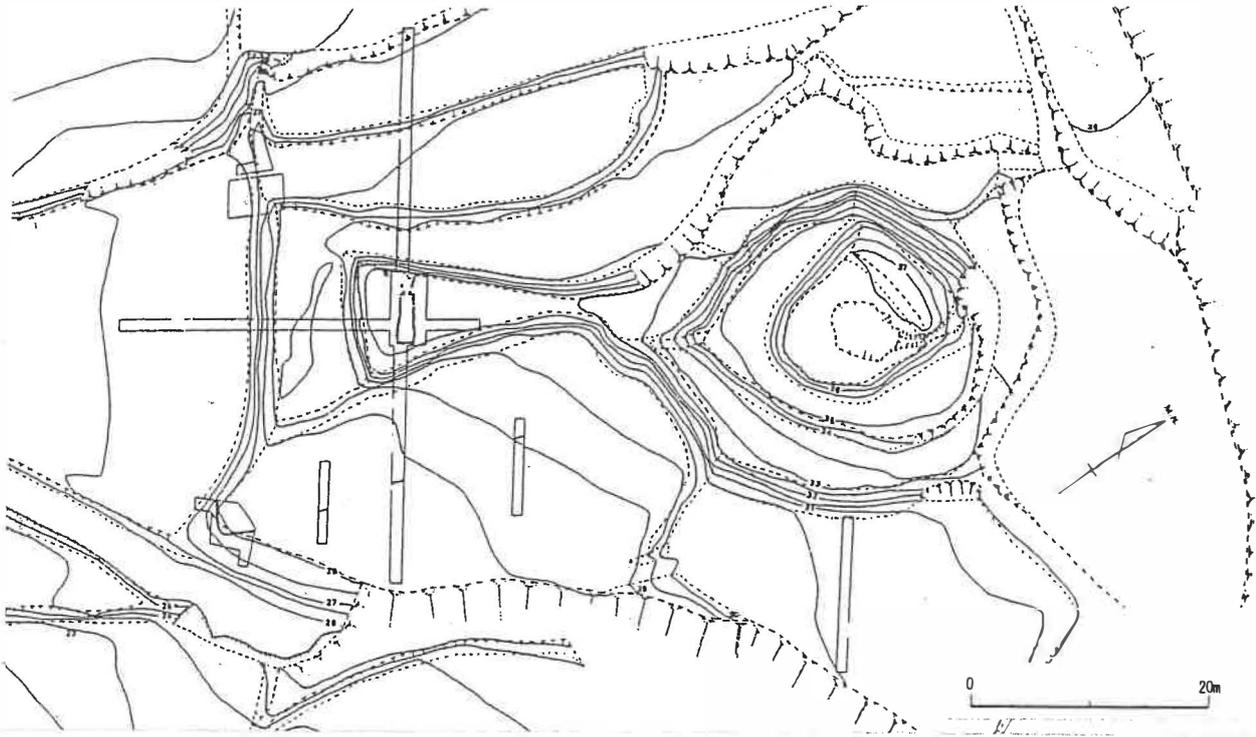
津屋崎古墳群主要古墳編年図 (池ノ上 宏氏による)



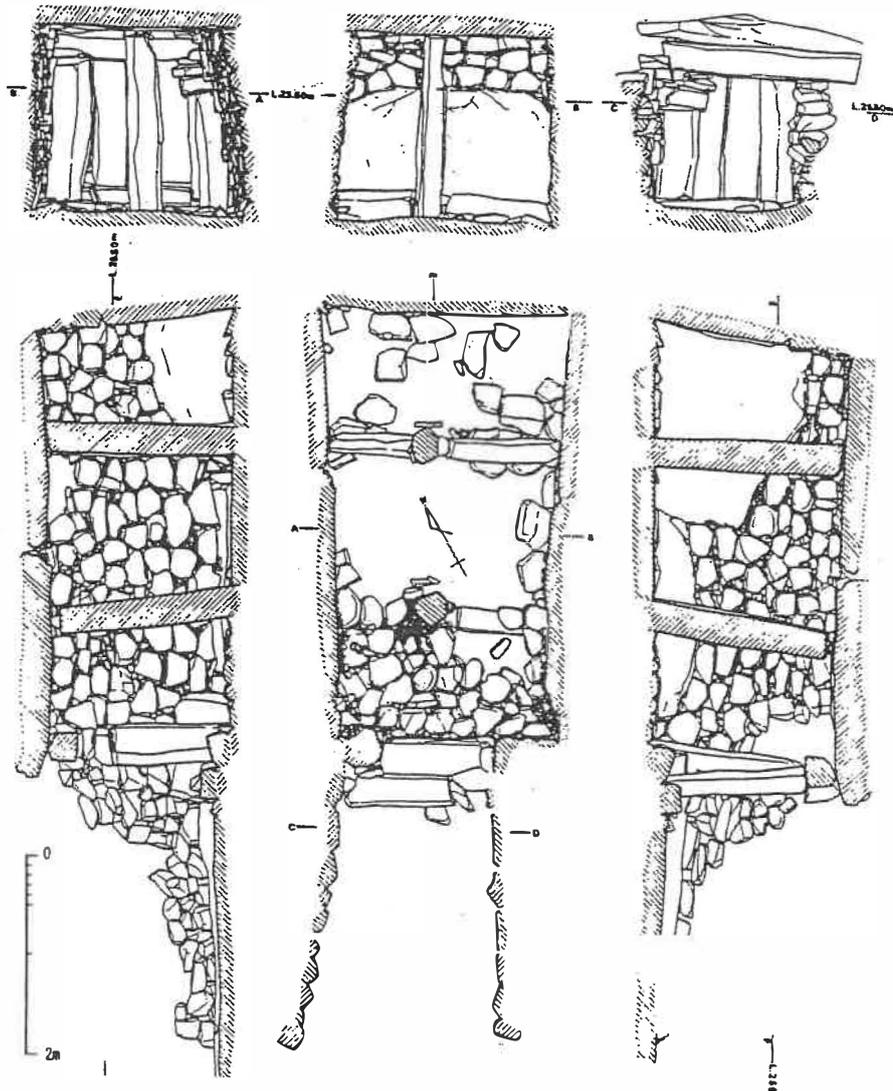
福津市勝浦峯ノ畑古墳



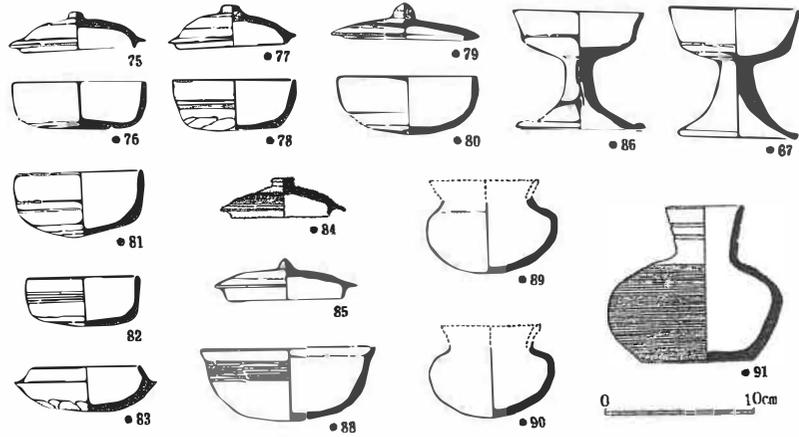
福津市在自劍塚古墳



勝浦井ノ浦古墳（旧称津屋崎 10 号墳、勝浦 12 号墳）



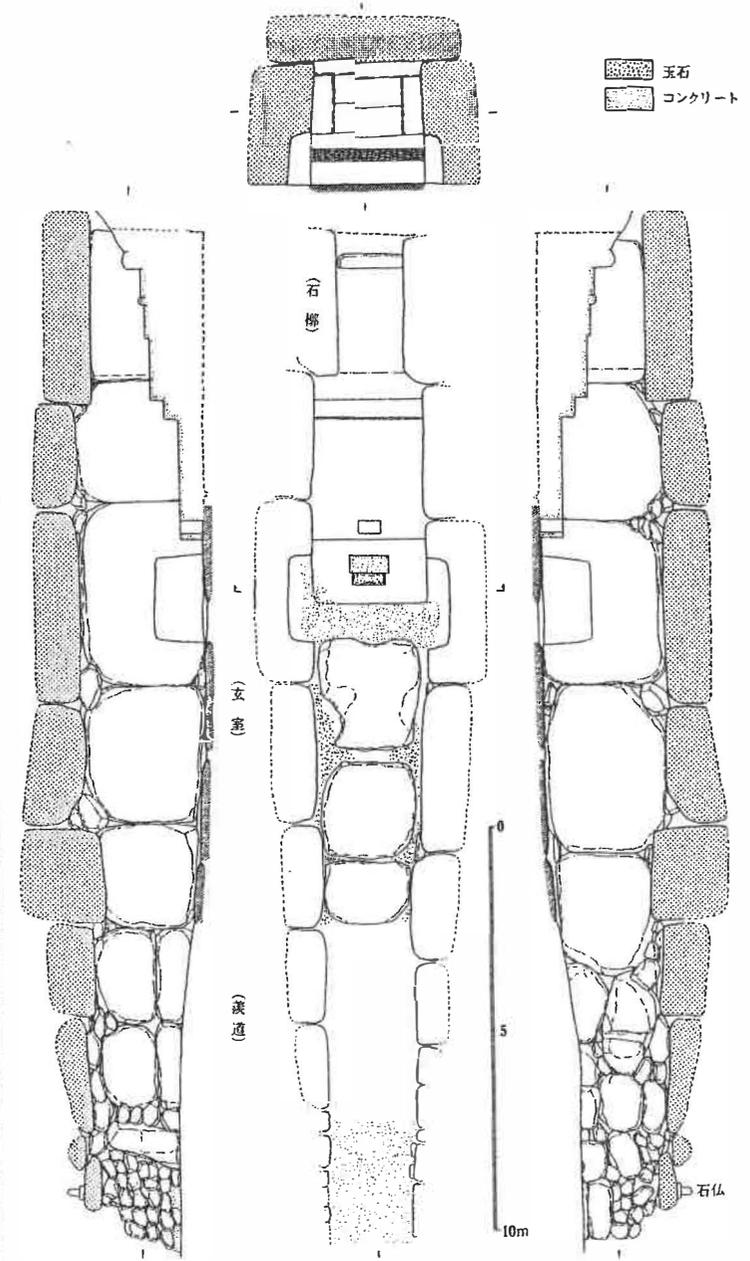
勝浦峯ノ畑古墳（旧称津屋崎 41 号墳、勝浦 14 号墳）の横穴式石室



宮地嶽古墳出土の須恵器 (花田勝広氏による)

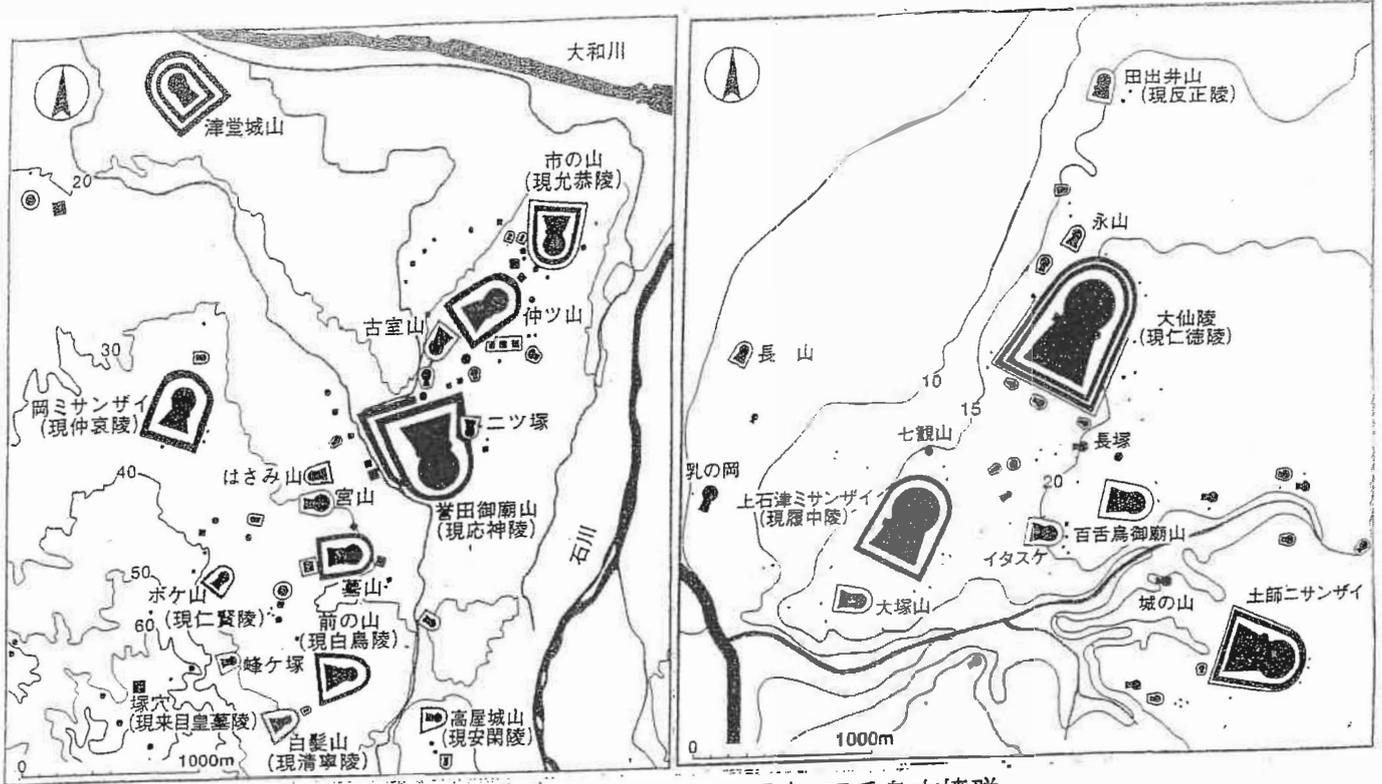
飛鳥 I	山田寺下層	
	甘樞丘東麓遺跡 焼土層 S X 037	
飛鳥 II	飛鳥池遺跡谷 S D 809 灰緑粘砂層	
	坂田寺池 S G 100	
	水落遺跡貼石遺構	

飛鳥 I 期末～飛鳥 II 期の須恵器杯類の編年



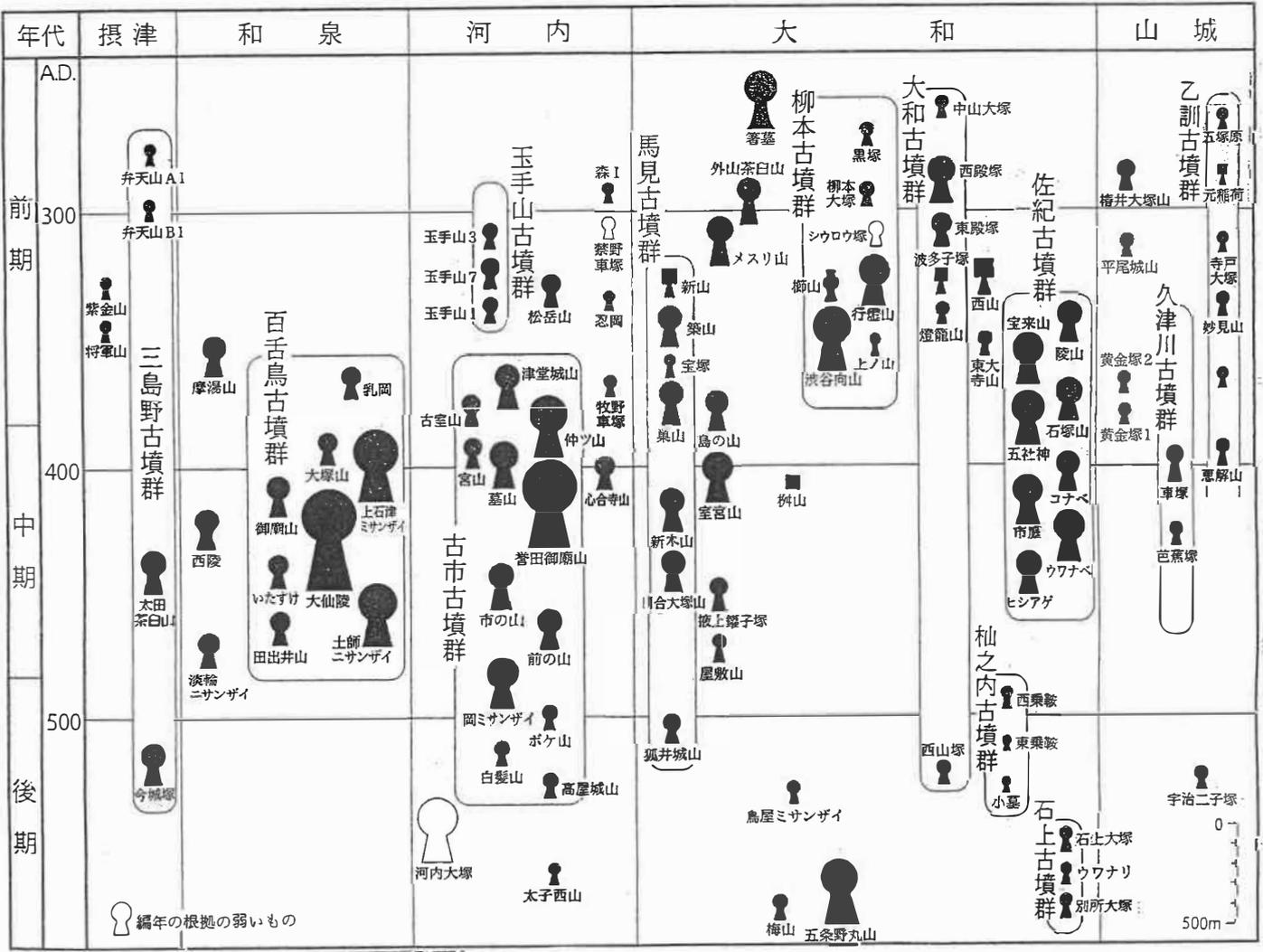
宮地嶽古墳の横穴式石室 (花田勝広氏による)

《畿内における大型古墳の動向》



羽曳野市・藤井寺 市古市古墳群

堺市 百舌鳥古墳群



畿内における大型古墳の編年

宗像地域における古墳時代首長の対外交渉と沖ノ島祭祀

重藤輝行

はじめに

『「宗像・沖ノ島と関連遺産群」研究報告』
I (2011年)で「宗像地域における古墳時代首長の対外交渉と沖ノ島祭祀」と題して宗像・福津の首長墓系列、朝鮮半島との対外交渉を検討

その後の研究の進展、気づき・着想

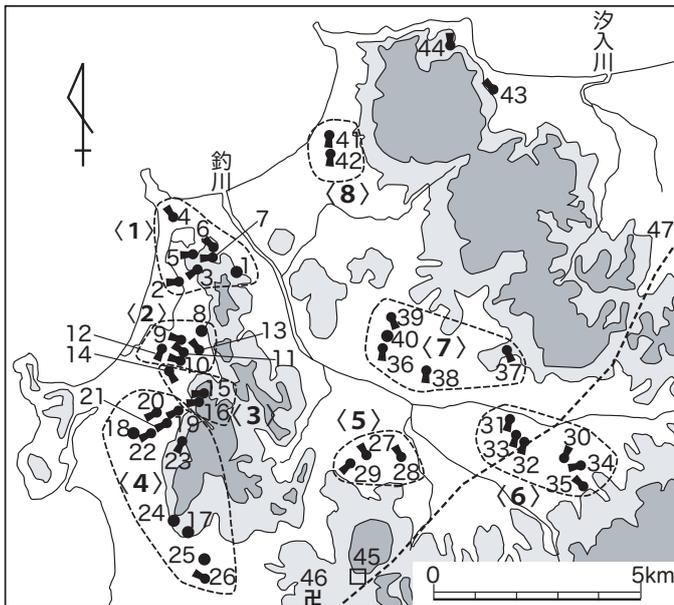
1 首長墓系列の検討のその後

(1) 首長墓系列の検討の意義

津屋崎古墳群 複数系列が同時に共存
八女古墳群との比較

(2) 手光波切不動古墳等の調査

宮地嶽古墳との前後関係



1. 上高宮 2. 勝浦峯ノ畑 3. 勝浦井ノ浦 4. 上野3号
5. 勝浦高原11号 6. 桜京 7. 牟田尻スイラ 8. 奴山正園
9. 新原奴山1号 10. 新原奴山22号 11. 新原奴山24号
12. 新原奴山12号 13. 新原奴山30号 14. 生家大塚 15. 大石岡ノ谷1号
16. 大石岡ノ谷2号 17. 井手ノ上 18. 須多田ニツ塚
19. 須多田上ノ口 20. 天降天神社 21. 須多田ミソ塚
22. 須多田下ノ口 23. 在自剣塚 24. 宮地嶽 25. 手光波切不動
26. 手光大人 27. 東郷高塚 28. 久原II-3号 29. スベツトウ
30. 徳重本村2号 31. 田久瓜ヶ坂1号 32. 田久貴船前1号
33. 田久貴船前2号 34. 徳重高田16号 35. 名残高田 36. 河東山崎
37. 城ヶ谷3号 38. 須恵クヒノ浦 39. 相原E-1号 40. 相原2号
41. 瀬戸4号 42. 瀬戸2号 43. 磯辺1号 44. 塩屋 45. 郡衙推定地
46. 神興廃寺 47. 古代駅路推定線

第1図 宗像地域の首長墓級古墳の分布 (重藤 2018)

朝鮮半島との関係の連続

その他の古墳の調査・報告書; 相原E-2

(3) 船原古墳埋納土坑の発見

古賀市内の首長墓の存在

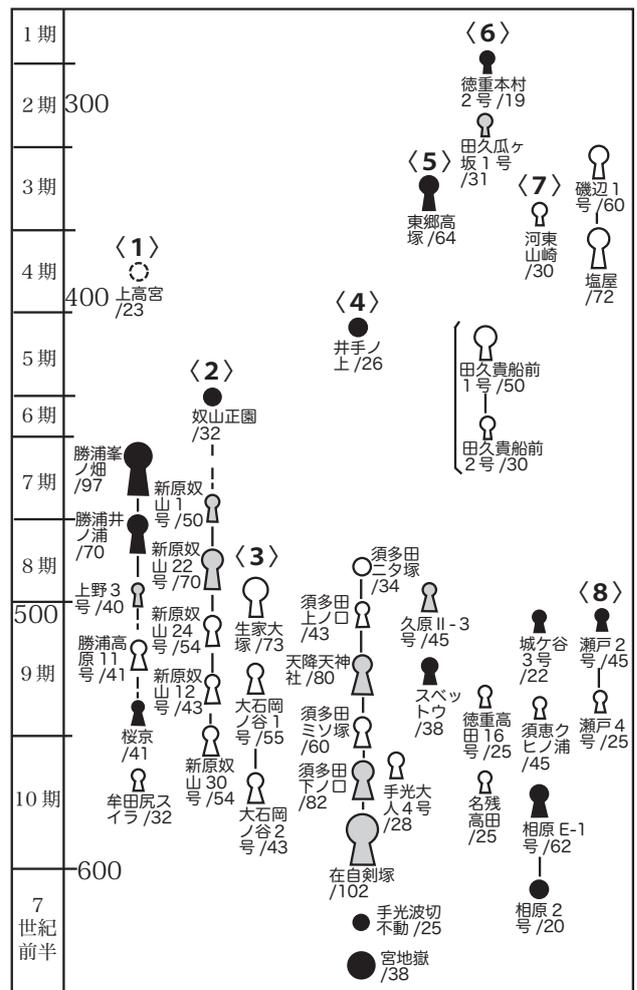
金銅装馬具、蛇行鉄器などの沖ノ島、宗像市・福津市内古墳出土品に通じる内容

(4) 古代宗像郡、沖ノ島へのつながり

官道・郡衙

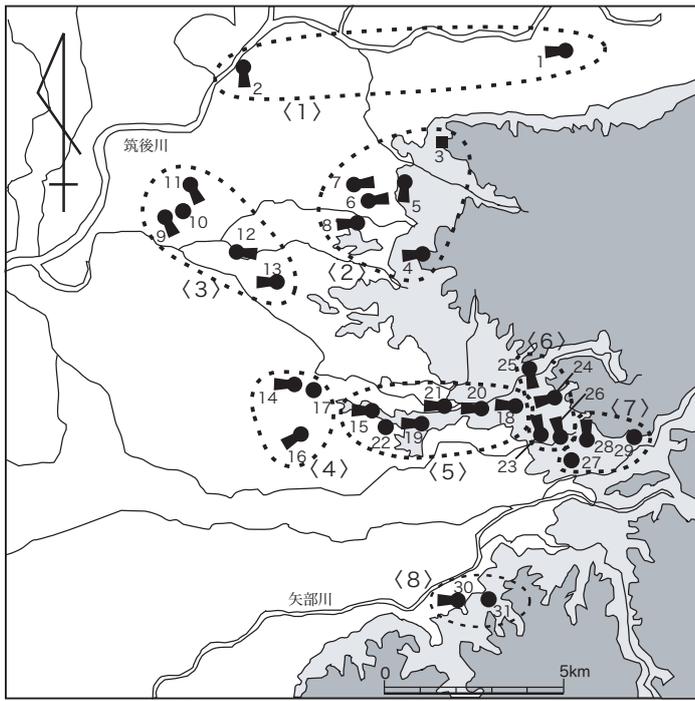
郡司職

首長墓系列・古墳群の評価



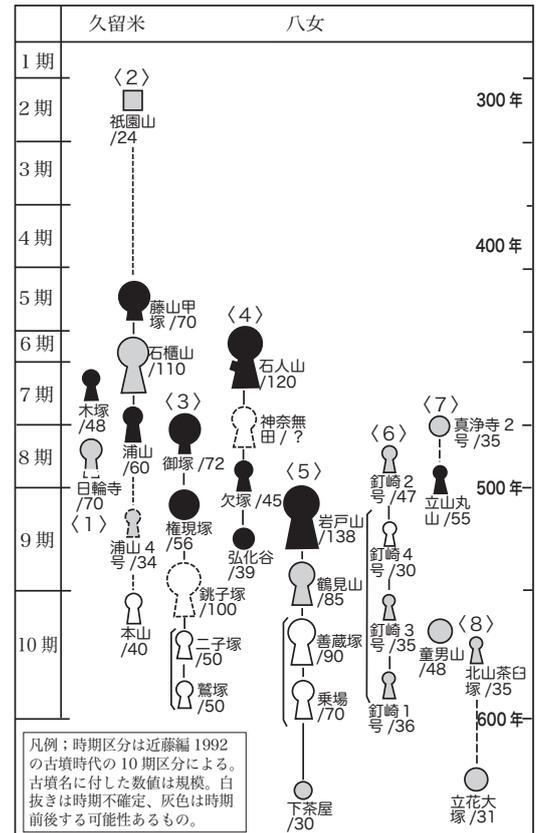
第2図 宗像地域の首長墓級古墳の編年 (重藤 2018)

< > 番号は第1図と対応。黒塗りは時期限定できるもの、灰色は時期前後する可能性のあるもの、白抜きは時期決定の根拠の弱いもの。古墳名後の数字は全長あるいは直径。

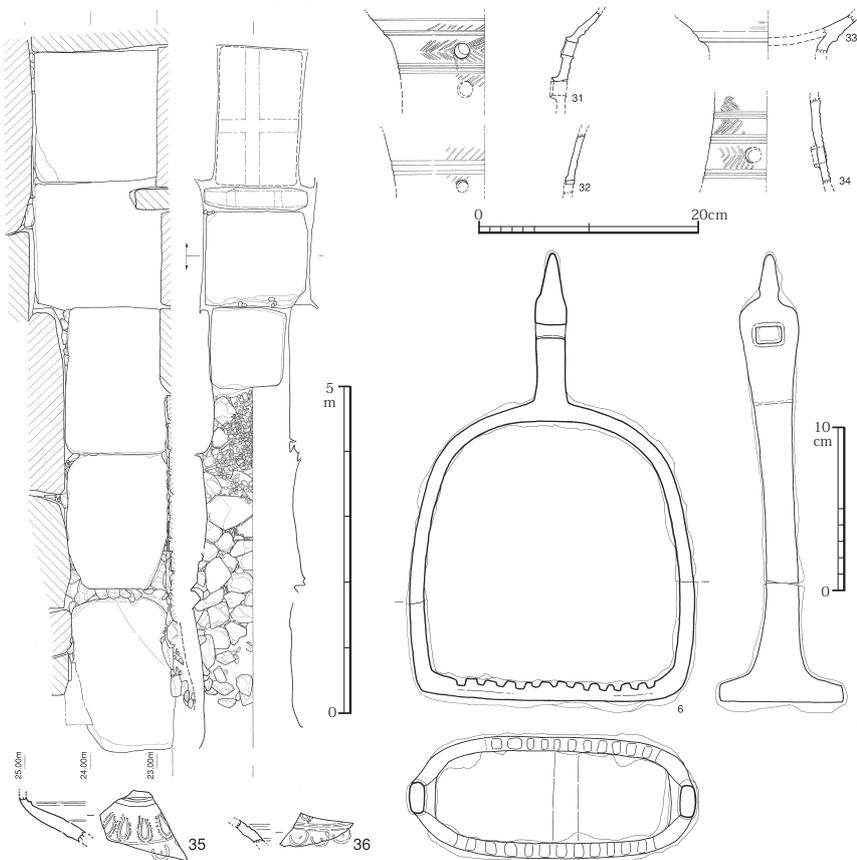


1. 木塚 2. 日輪寺 3. 祇園山 4. 藤山甲塚 5. 石櫃山 6. 浦山
 7. 浦山4号 8. 本山 9. 御塚 10. 権現塚 11. 銚子塚
 12. 二子塚 13. 鷺塚 14. 石人山 15. 神奈無田 16. 欠塚
 17. 弘化谷 18. 鶴見山 19. 岩戸山 20. 善蔵塚 21. 乗場
 22. 下茶屋 23. 釘崎2号 24. 釘崎4号 25. 釘崎3号
 26. 釘崎1号 27. 真浄寺2号 28. 立山丸山 29. 童男山
 30. 北山茶臼塚 31. 立花大塚

第4図 八女周辺の首長墓の分布 (重藤 2016)



第5図 八女の首長墓系列 (重藤 2016)



第6図 手光波切不動古墳石室と出土遺物 (石室は 1/100、6・35・36は 1/4、31～36は 1/6、井浦編 2013 から転載)

引用文献 (1)

井浦一編 2013 『津屋崎古墳群』Ⅲ 福津市文化財調査報告書第7集

池ノ上宏・安武千里編 1994 『在自遺跡群』Ⅰ 津屋崎町文化財調査報告書第9集

池ノ上宏・吉田東明編 2011 『津屋崎古墳群』Ⅱ、福津市文化財調査報告書第4集

辛嶋眞治・木村達美編 2011 『みやこ町内遺跡群』Ⅴ みやこ町文化財調査報告書第6集

重藤輝行 2012 「3地域の展開 北部九州」一瀬和夫・福永伸哉・北條芳隆編 『古墳時代の考古学』2 古墳出現と展開の地域相 同成社

重藤輝行 2015 「古墳時代中期の日本列島 九州」『季刊考古学』別冊22 中期古墳とその時代 雄山閣

重藤輝行 2016 「筑紫君磐井の乱と八女の古墳文化」『特別展八女の名宝』九州歴史資料館

20) (第4表郡司在職期間表から 筑前宗形郡の抜粋)

- 大領 宗形朝臣等杼 和銅2年(709、続日本紀 和銅2年5月)
- 大領 宗形朝臣鳥麻呂 天平元年(729、続日本紀 天平元年4月)
- 大領 宗形朝臣與呂志 天平17年(745、続日本紀 天平17年6月)
- 大領 宗形朝臣深津 神護景雲元年(767、続日本紀 神護景雲元年8月)
- 大領 宗形朝臣大徳 宝亀9年(778、続日本紀 宝亀9年4月)
- 大領 宗形朝臣池作 延暦17年(798、類聚三代格延暦19年12月符)

22) (宗形だけではなく、全国、全史料を検討して) 3年以上という期間でみてみれば、かなりの郡司が入れ替わっている

23) 郡司の在職期間が従来考えられていたよりかなり短く、同一職に十年も在任するのは稀

27) 実際には郡司は終身官としては運用されておらず、その在任期間の縮小が8世紀後半の擬任郡司の比率の増大をもたらした 8世紀前半の時点でも、郡司は実際には終身官としては運用されていなかった

33) 前郡司の発生は在地における政治的諸関係によることから、郡司の任限は、律令国家でなく在地の郡司候補者相互間の政治的關係によって自ずから規定されるべきもので、それは個々の郡の在地の秩序によって一様ではなかった

2 勝浦峯ノ畑古墳の報告書刊行と副葬品の検討

(1) 勝浦峯ノ畑古墳の副葬品の確定

(2) 装身具の内容の検討

金銅製冠、帯金具、金製垂飾付耳飾等の内容が復元できる

江田船山古墳、埼玉稲荷山古墳と比較可能

鏡の検討

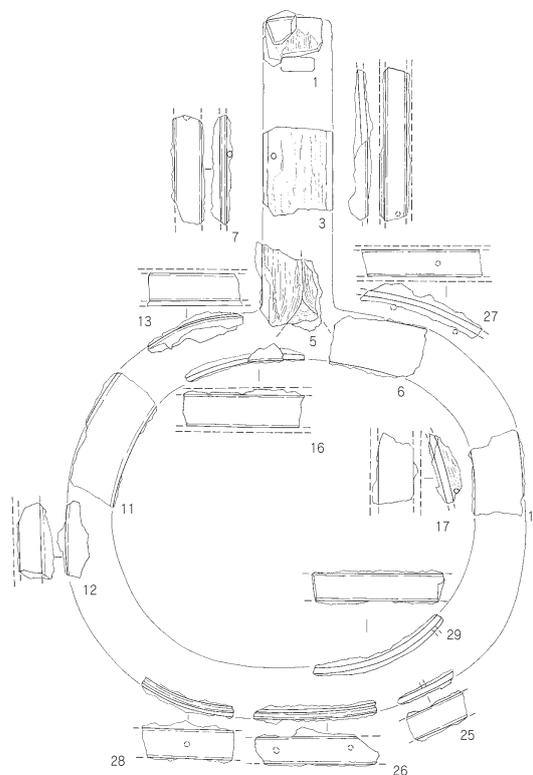
(3) 朝鮮半島百濟漢城期の装身具の分布

水村里 富長里 雁洞

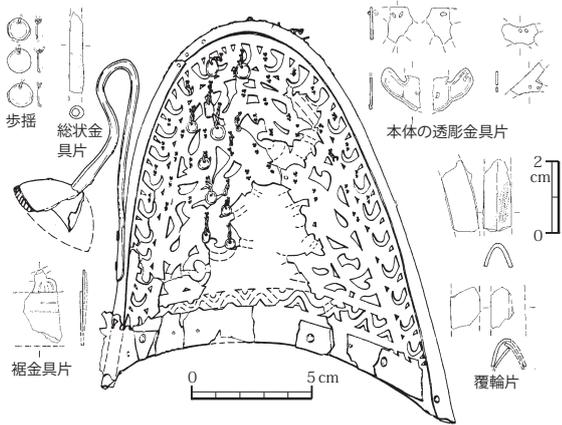
(4) 甲冑の分布

勝浦峯ノ畑；鋳留短甲2領以上出土

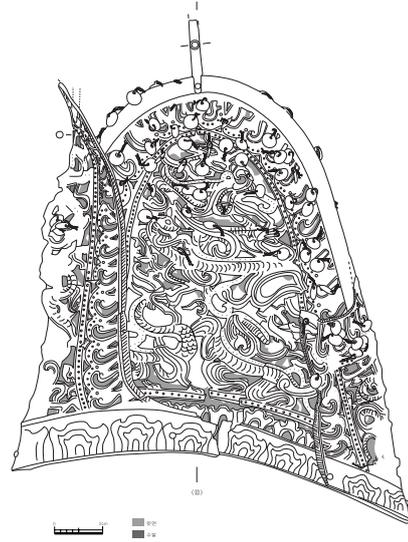
同時期中期後半、津屋崎古墳群、宗像周辺に甲冑の出土の一つの核がある



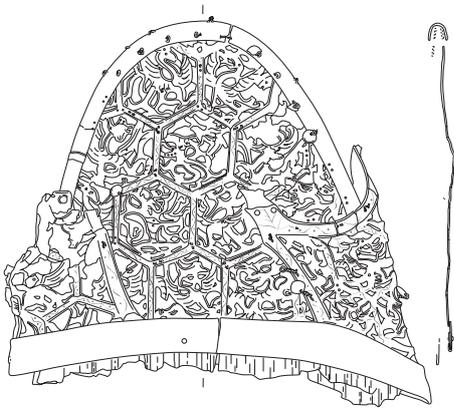
第6図 勝浦峯ノ畑古墳出土木芯鉄板張輪鏡(1/3、池ノ上他編2011から転載)



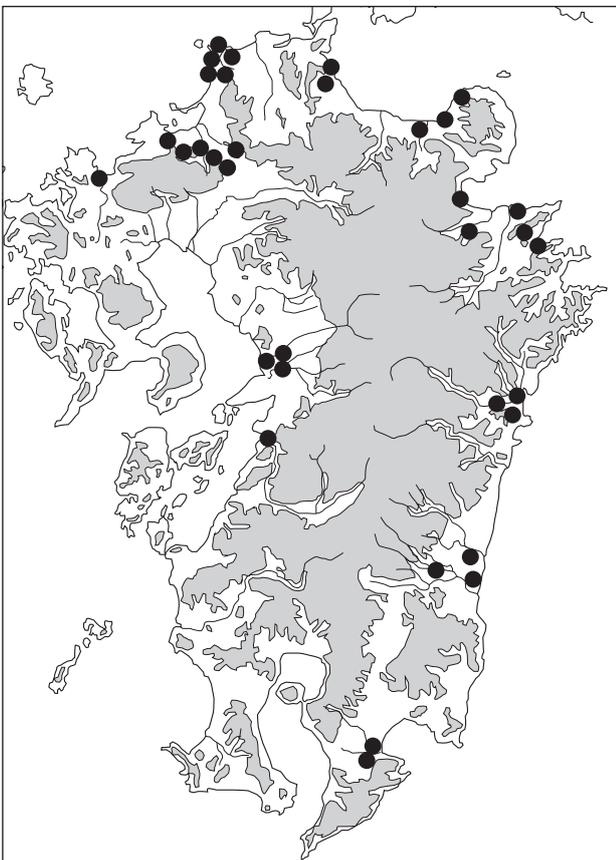
第7図 江田船山古墳出土冠帽と勝浦峯ノ畑古墳出土冠帽子 (江田船山古墳 1/3、勝浦峯ノ畑古墳破片 1/2、池ノ上他編 2011、本村 1991 から転載)



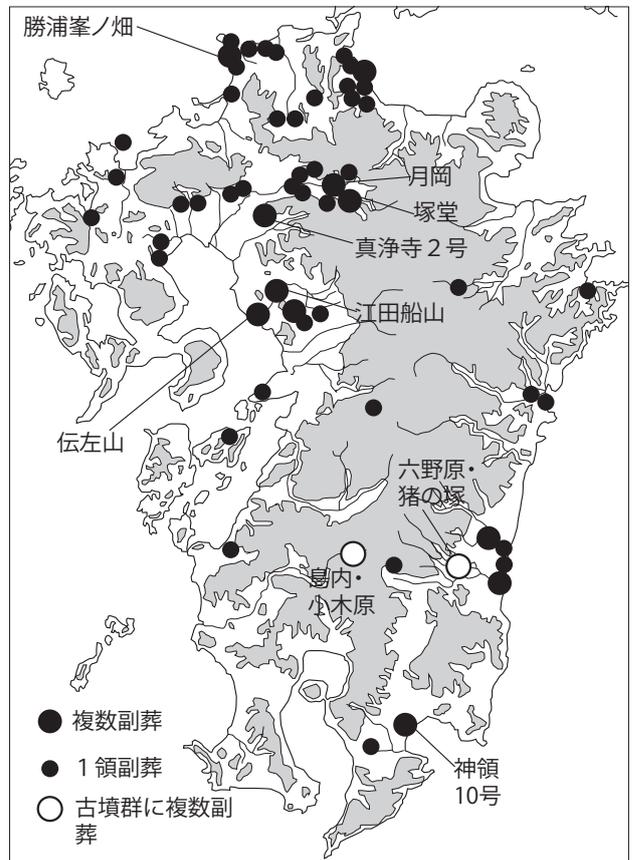
第8図 公州水村里1号墳出土冠帽 (1/3、忠清南道 2007 から転載)



第9図 瑞山富長里5号墳丘1号土壌墓出土冠帽 (1/3、忠清南道 2009 から転載)



第10図 革綴短甲の分布(重藤 2015 を改変)



第11図 鋳留短甲の分布(重藤 2015 を改変)

3 宗像地域の渡来人とその役割

(1) 宗像地域の朝鮮半島からの渡来人

朝鮮半島系土器の分布

沖ノ島、津屋崎古墳群との関係

亀田修一氏の研究

(2) 排水溝付竪穴住居の検討

分布

朝鮮半島の状況

渡来人の動向

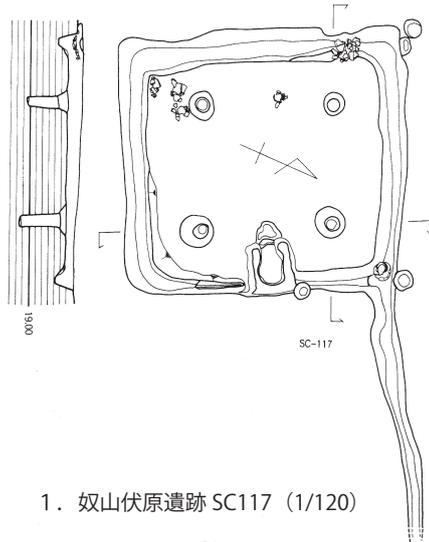
(3) 倉庫群と渡来人

排水溝付竪穴住居と倉庫群

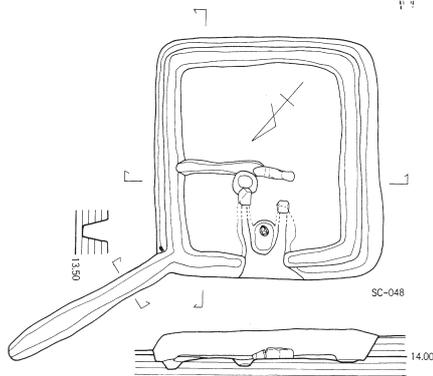
渡来人の役割

田熊石畑遺跡の倉庫群

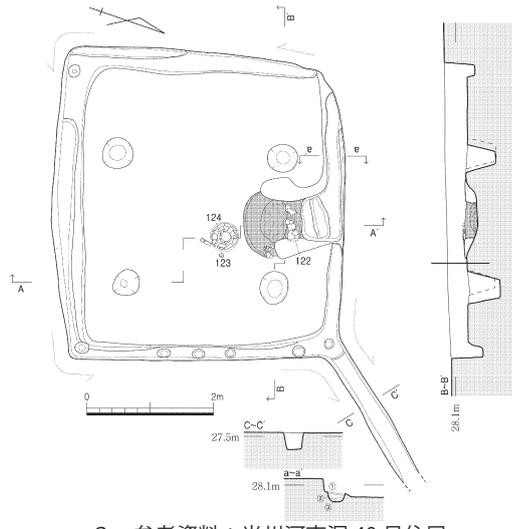
三国時代集落遺跡における倉庫との比較



1. 奴山伏原遺跡 SC117 (1/120)



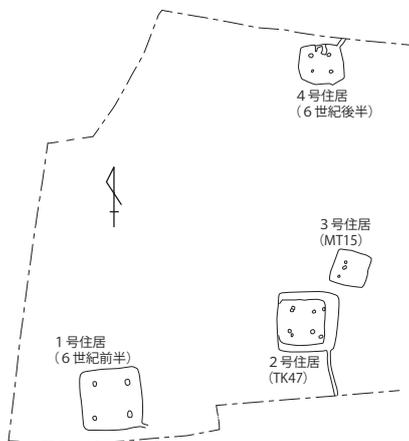
2. 奴山伏原遺跡 SC048 (1/120)



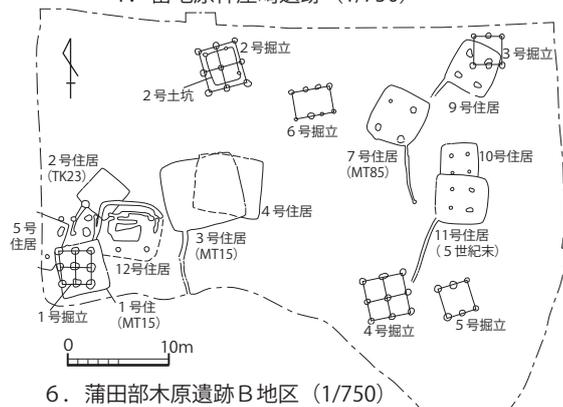
3. 参考資料：光州河南洞 40号住居跡 (1/120)



4. 富地原神屋崎遺跡 (1/750)

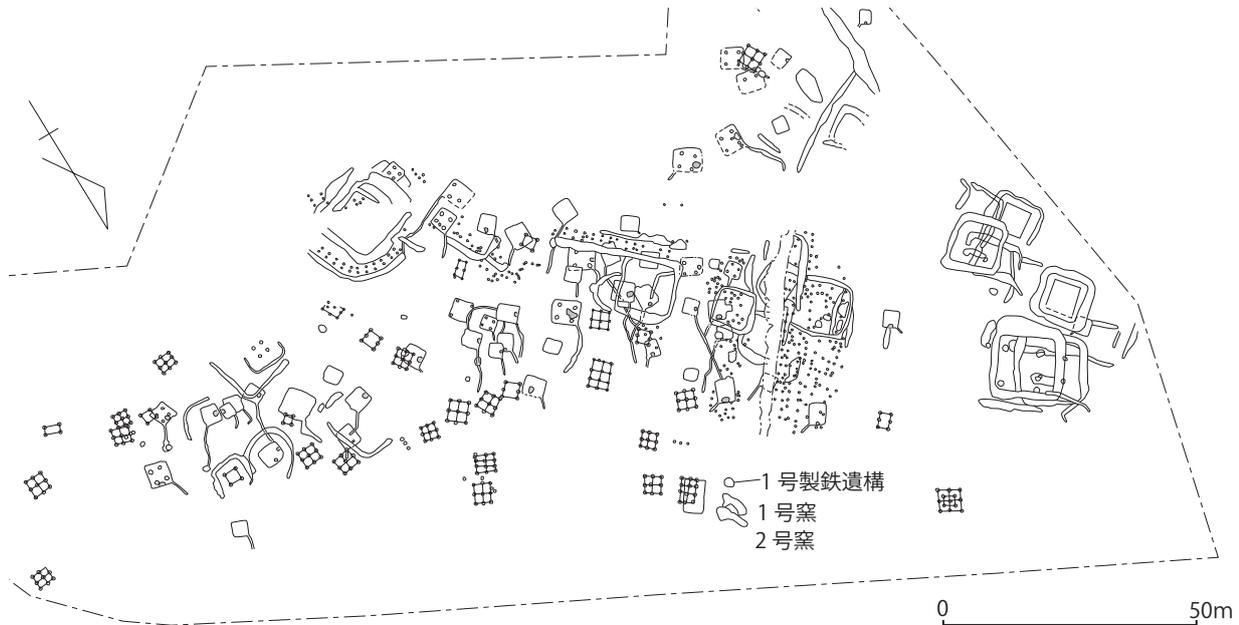


5. 蒲田部木原遺跡A地区 (1/750)



6. 蒲田部木原遺跡B地区 (1/750)

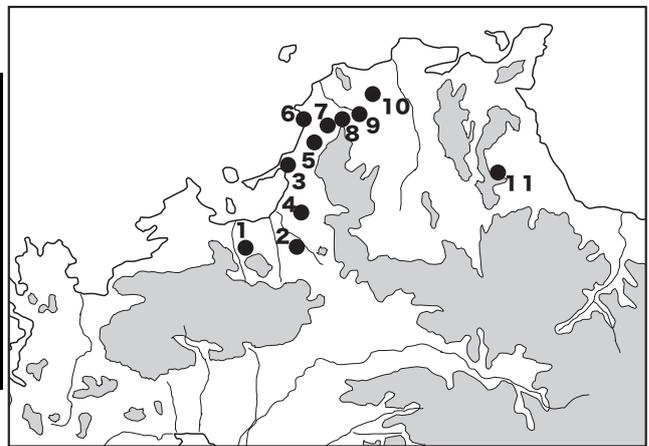
第12図 排水溝付竪穴住居の事例



第13図 光州広域市山亭洞遺跡 (1/1,500、湖南文化財研究院 2008 よりトレース)

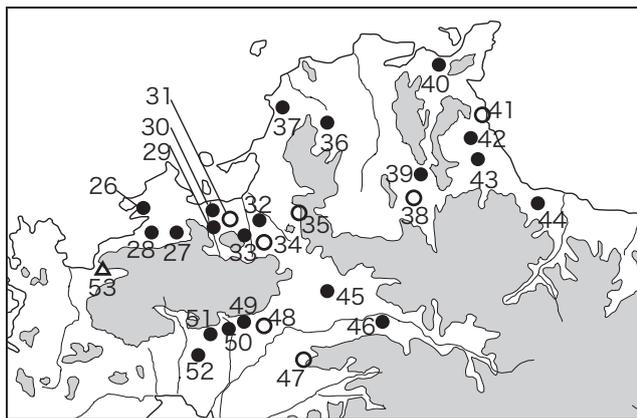
第1表 九州北部の排水溝付住居の特徴

	壁溝に 続く	壁溝・壁際 土坑に続く	住居床面の溝・ 土坑に続く	無し・ 不明
弥生中期～後期	1	5	5	2
古墳前期～中期前半	3	1	3	1
古墳中期後半	43	1	5	2
古墳後期	78	3	0	0
	柱有り・典型的配置			
弥生中期～後期	13			2
古墳前期～中期前半	6			2
古墳中期後半	36			15
古墳後期	59			22



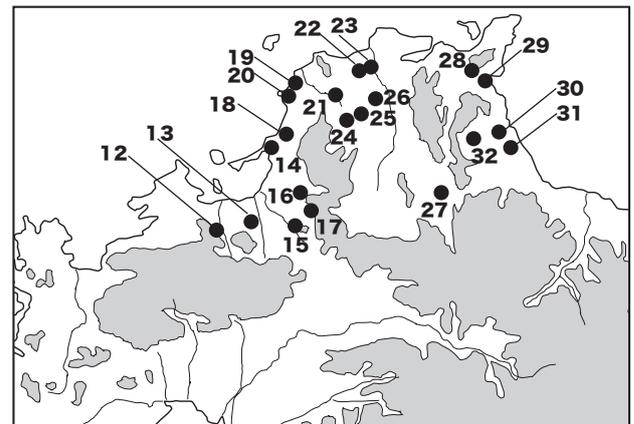
1. 福岡市早良区飯倉F 2. 福岡市博多区高畑 19次 3. 福岡市東区三苦
4. 粕屋町蒲田部木原 5. 古賀市大田町 6. 福津市練原・奴山伏原・在自下ノ原
7. 宗像市久原瀧ヶ下 8. 宗像市野坂一町間 9. 宗像市武丸小伏・武丸高田・富地原神屋崎・富地原森 9. 岡垣町友田2区 10. みやこ町大久保明神・大久保原田II地点

第15図 古墳時代中期後半の排水溝付竪穴住居の分布



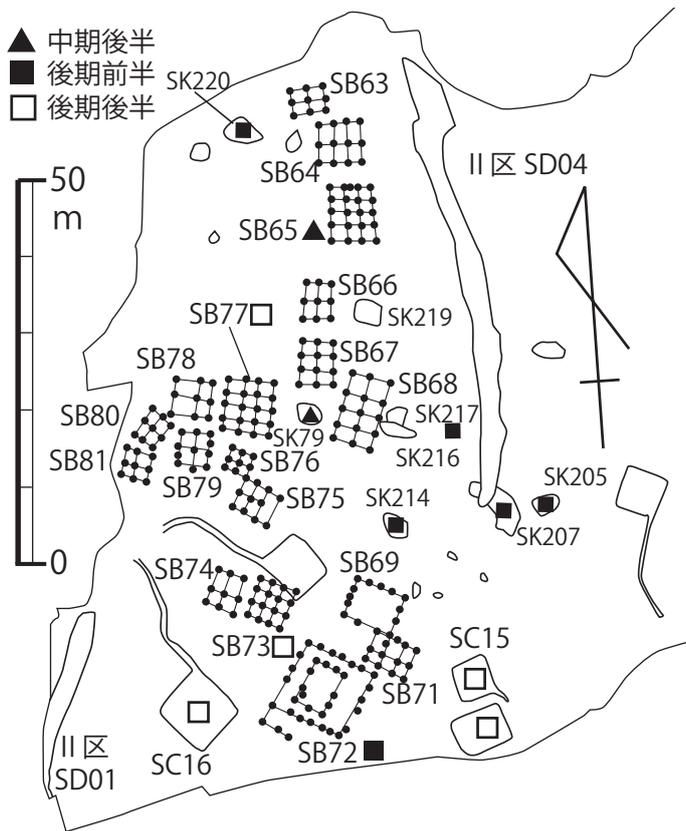
26. 御床松原 27. 井原 28. 東地区 29. 吉武 30. 有田 31. 梅林 32. 高畑
33. 野口 34. カクチガ浦 35. 乙植木 36. 富地原遺跡群 (富地原森・富地原川原田)
37. 在自遺跡群 (在自小田・在自ノ原・在自下ノ原) 38. セスドノ 39. 五徳畑ヶ田
40. 小倉城下屋敷 41. 番塚 42. 鬼熊 43. 京ヶ辻 44. 塔田琵琶田 45. 西森田 46. 塚堂 47. 西行 48. 青柳 49. 浦田
50. 野田 51. 藤附K 52. 東高木 53. 仁田

第14図 古墳時代中期後半の百済・馬韓系土器の分布 (●は集落遺跡、○は古墳、△は窯跡)

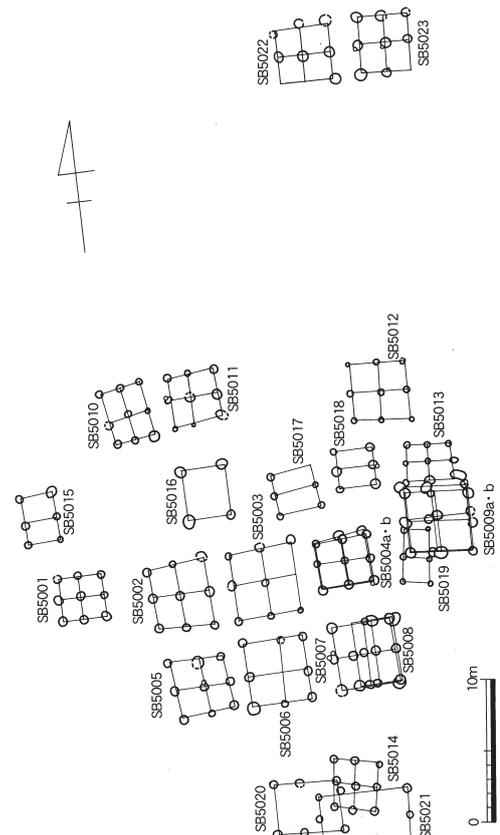


12. 福岡市吉武 13. 福岡市梅林 14. 福岡市三苦 15. 大野城市薬師の森
16. 粕屋町蒲田部木原 17. 須恵町牛力隈 18. 古賀市極田・杉ノ木
19. 福津市練原・奴山遺跡群 (奴山伏原・奴山番田・奴山大門) 20. 福津市生家・在自遺跡群 (生家釘ヶ裏・在自下ノ原・在自ノ原・在自小田)
21. 宗像市武丸高田・王丸河原 22. 岡垣町高丸・友田 23. 遠賀町尾崎・天神
24. 宮若市中遺跡群 (畑界・前田) 25. 宮若市咲花 26. 鞍手町向山 27. 川崎町冥加塚
28. 北九州市上葛原 29. 北九州市上清水 30. 行橋市下神田 31. みやこ町皆見
31. みやこ町黒田遺跡群 (黒田平田・黒田平原・黒田蔵ヶ本)

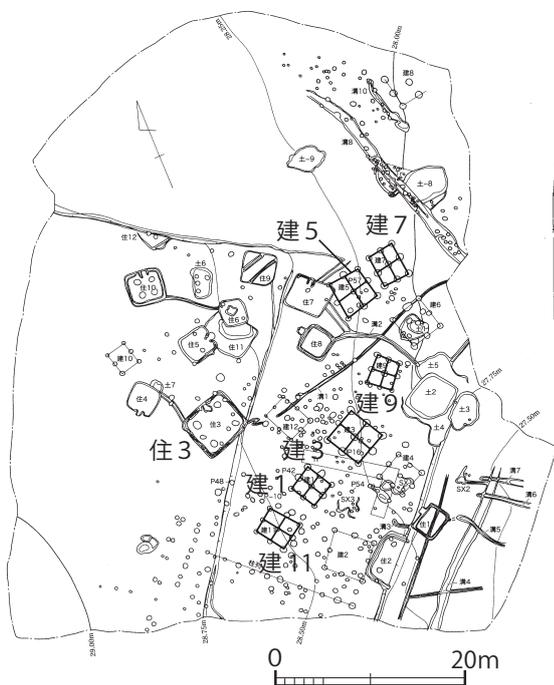
第16図 古墳時代後期の排水溝付竪穴住居の分布



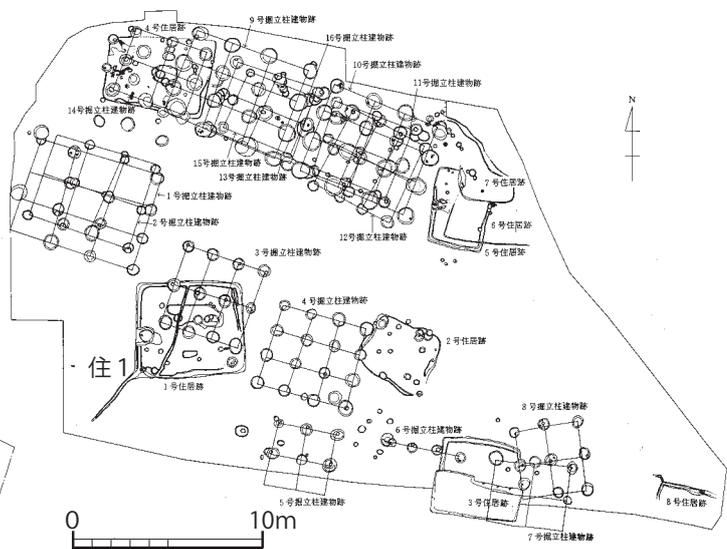
第 17 図 吉武遺跡群における排水溝付竪穴住居 (報告書よりトレス)



第 18 図 田熊石畑遺跡倉庫群 (1/400、白木 2009)

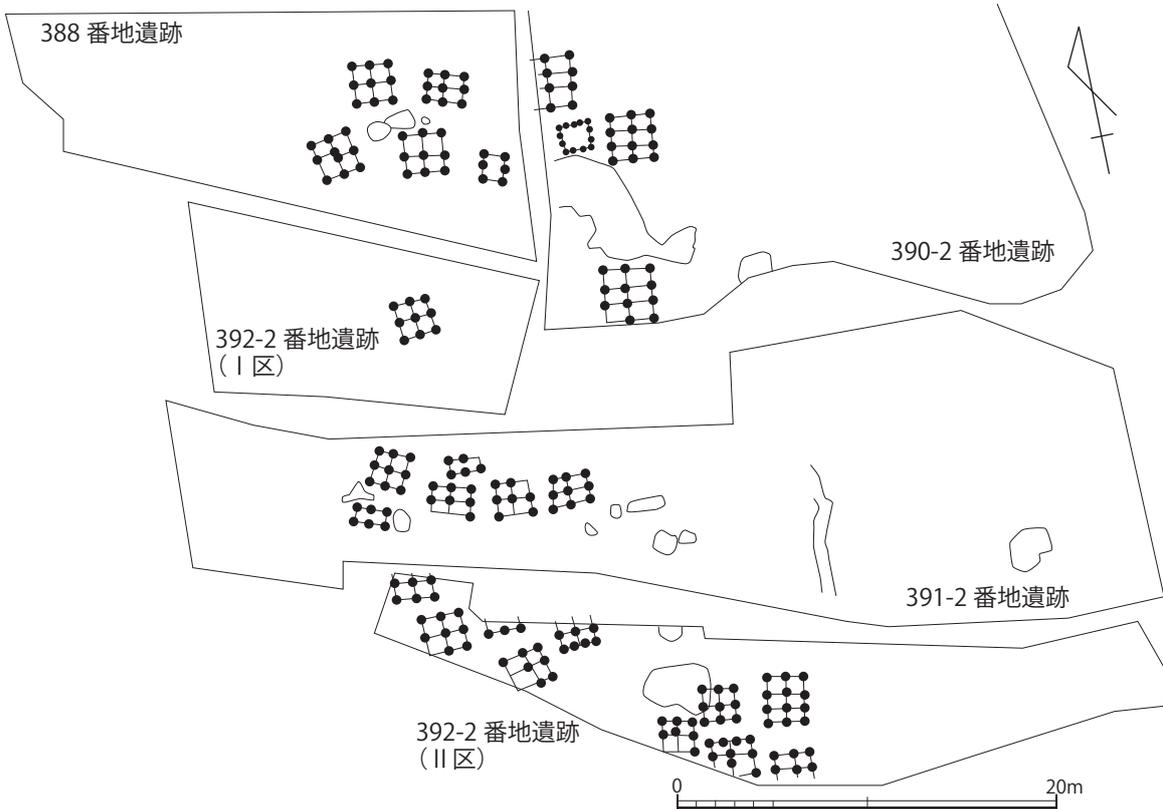


1. みやこ町黒田平田遺跡 (1/1000)

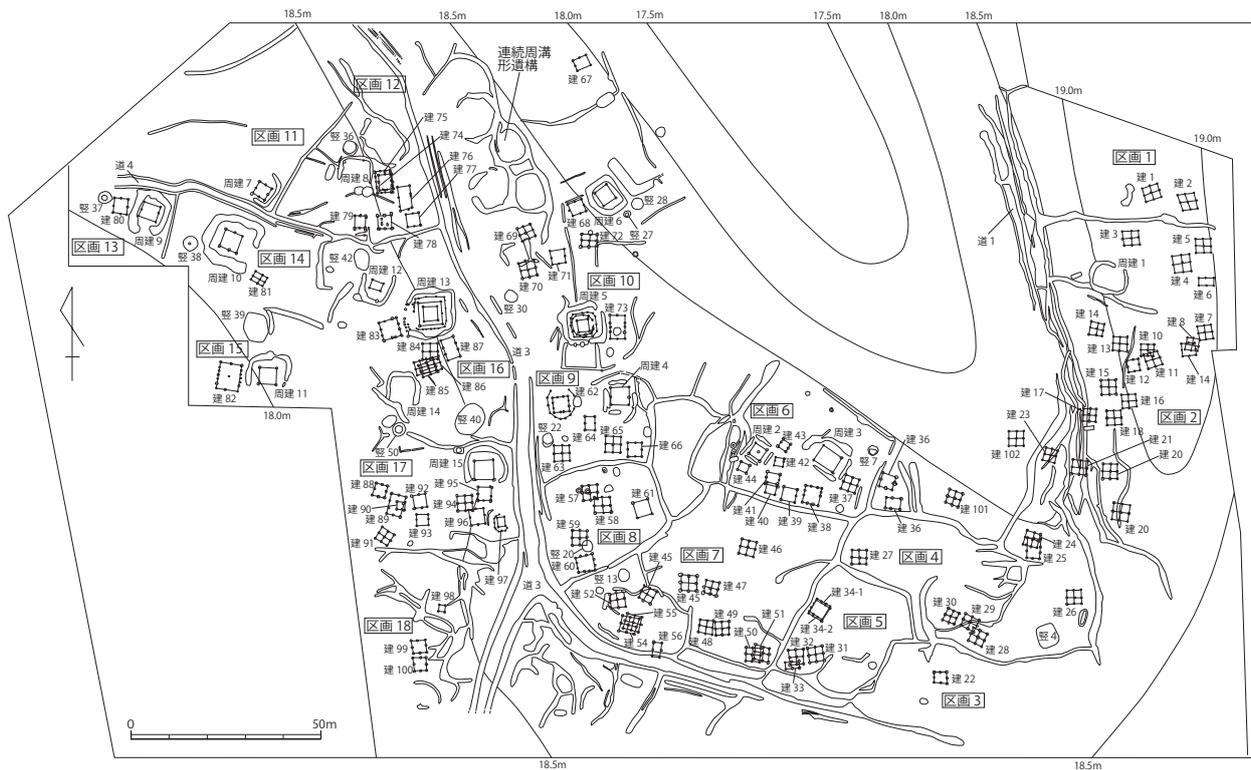


2. 岡垣町友田遺跡 2区 (1/500)

第 19 図 黒田平田遺跡・友田遺跡における排水溝付竪穴住居と竪立柱建物 (辛島他 2001、中川 1989 に加筆 黒田平田 1/800、友田遺跡 2区 1/400)



第 20 図 大邱広域市泗水洞遺跡 (1/400、東亜細亜文化財研究院 2012 をトレース)



第 21 図 世宗特別自治市羅城里遺跡 (1/2000、韓國考古環境研究所 2015 よりトレース)

引用文献 (2)

重藤輝行 2018 「宗像氏と宗像の古墳群」『季刊考古学』別冊 27 号 世界のなかの沖ノ島 雄山閣
 白木英敏 2009 『田熊石畑遺跡』宗像市文化財調査報告書第 61 集

中川潤次 1989 『友田遺跡群 2 区』岡垣町文化財調査報告書 第 10 集
 本村豪章 1991 「古墳時代の基礎研究稿一資料編 (II) 一」『東京国立博物館紀要』26

4 古墳群と沖ノ島の関係の今後の課題

(1) 沖ノ島に関連する首長墓の検討

津屋崎古墳群の内容解明

勝浦井ノ浦、大石岡ノ谷1・2号の出土遺物の報告が大きな課題

宗像市内の首長墓の解明

糟屋郡・遠賀郡における首長墓の動向

(2) 古代宗像の古墳時代初頭～奈良時代における集落

集落遺跡の総合的な分析・検討

在自遺跡における祭祀的な建物

渡来人の集落

(3) 古代宗像の古墳時代初頭～奈良時代における生産

須恵器と渡来人

鉄器・鉄生産と渡来人

その他の生産遺跡

(4) 筑紫君勢力やヤマト王権、朝鮮半島との関係

筑紫君の外交拠点と糟屋屯倉

ヤマト王権との関係

百濟・新羅・加耶との関係

引用文献 (3)

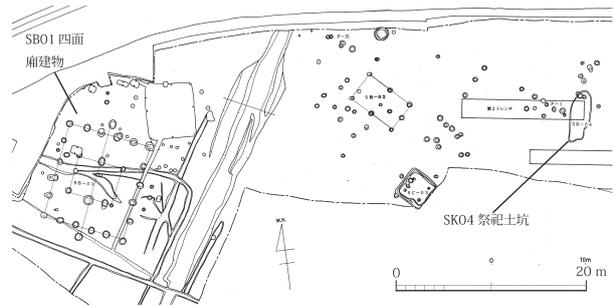
東亜細亜文化財研究院 2012『大邱泗水洞遺跡』
東亜細亜文化財研究院発掘調査報告書第 67 輯

忠清南道歴史文化研究院 2007『公州水村里遺蹟』

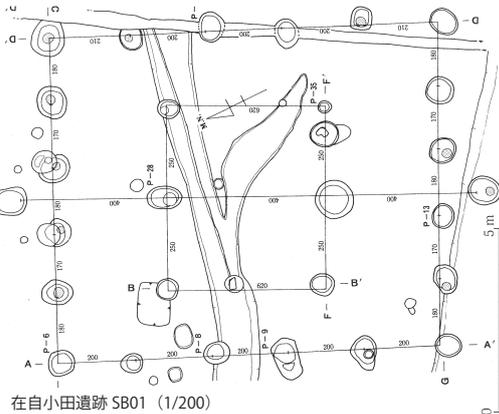
忠清南道歴史文化研究院 2009『瑞山富長里遺蹟』

韓國考古環境研究所 2015『燕岐羅城里遺蹟』
韓國考古環境研究所研究叢書第 63 輯 行政中心
複合都市發掘調査報告第 19 冊

湖南文化財研究院 2008 b『光州山亭洞遺蹟』
湖南文化財研究院學術調査叢書第 100 冊

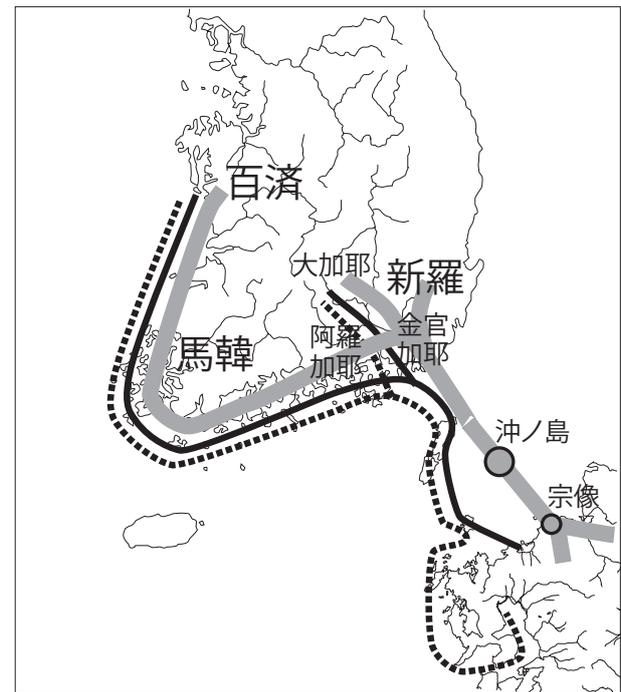


在自小田遺跡遺構配置図 (1/800)



在自小田遺跡 SB01 (1/200)

第 22 図 在自小田遺跡遺構配置図と SB01 平面図 (池ノ上他編 1994 から転載)



第 23 図 古墳時代中期後半以降の対外交渉ルート (重藤 2011)